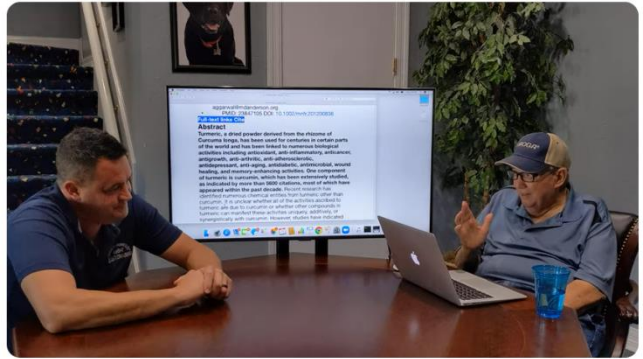


《More research, whole plant benefits：より多くの研究、植物全体のメリット》

Shawn：もうひとつの現状があります。それは、ほとんどの人が薬について考えたがる、何かを引き起こす有効成分は何かと考えたがることです。植物全体が、私たちの体が健康でいられるように設計されたとおりに働くのを、本当に本当に助けることができるというビル博士のさらなる証拠を示しましょう。



Dr. Bill：家にいることを余儀なくされたけれど、私にとっては素晴らしい機会でした。夜 12 時まで文献を読み漁ることが多かったです。見つけたものすべてに魅了されながら、MD アンダーソンに注目しています。というのも、MD アンダーソンは世界一のがんセンターと言われているから、彼らが何をして何を考えているのかを知ることが意味があります。

これは多くの人が知っているターメリック（ウコン）についての論文です。世界中で何世紀にもわたって、あらゆる症状の治療に使われています。アンチエイジング、抗糖尿、抗菌、創傷治癒、記憶力向上。クルクミンは 100 年ほど前に抽出された成分なので、クルクミンの研究をしているのだそうです。あまりにも良すぎるように思えますが、薬は単一成分なので。。。

Shawn：それが彼らの考え方ですね。

Dr. Bill：彼らの考え方です。これに含まれるすべての成分を見ることはできないので、ターメリックだけを見てみることにしましょう。過去 10 年間に 5600 件の論文が Pubmed で発表されています。毎年たくさんの論文が発表されています。最近の研究では、ターメリックに含まれる特性を持つ成分がたくさんあることが確認されています。中国では既になん治療薬として承認されています。

Shawn：ターメリックは植物全体で、クルクミンはターメリック由来の要素ですね。

Dr. Bill：それだけでなく、ここに含まれる他の化合物もすべて、がん細胞を殺すことが示されています。ということは、おそらく一緒に働いているのでしょう。しかし、研究者は単一成分は研究したがるけれど、混合物はやりたがらないのです。混合物がやっていることは驚くべきことなのに。もっとも良い例は、マラリアの植物に関する研究だと思います。多くの医者が第三国に行きました。年を取ると、いつかボランティアに行きたいと思うようになります。ボランティアで行く医



師たちにたくさんの薬を供与し、そして彼らは世界中で植物を見てきます。医師らはそれを製薬会社に報告して有効成分を見つけようとしていました。しかし、わずかな活性はあったかもしれませんが、単一の活性成分は見つけれませんでした。そこで彼らは、その成分は効き目がないと思い込んでしまったんです。単一の有効成分を見つけなければならなかったから。ヤナギの樹皮からアスピリン、ジギタリスからジゴキシンのように、多くの植物から活性成分を見つけることができます。しかし彼らが求めるのは、純粋な単一成分だけです。面白いことに、そのような植物のいくつかを遡って調べた結果、抗マラリア作用をもつ成分が組み合わさっていたんです。その中には、マラリアの耐性化を防ぐ成分も含まれていました。マラリアを死滅させることはなかったけれど、持続することもなかったんです。大人に飲ませるマラリア治療薬は、子どもには毒性が強すぎて、むしろ殺してしまうかもしれません。しかし、これらの植物は問題なく機能します。何かを抽出するたびに、自然が作り出した方法を変えると大抵失敗するんです。

Shawn：ありがとう、ビル博士。ビル博士は、植物全体がどのように作用し合って、相乗的に私たちの体がなすべきことを助けているのかの一例を示してくれました。すべてのものがマラリアの役に立つといった例や、このターメリックの論文では複数の方法で役に立っていることを示しています。ビル博士からの追加情報でした。

Review
2013 Sep;57(9):1529-42. doi: 10.1002/mnfr.201200838. Epub 2013 Jul 12.

クルクミンを含まないウコンが抗炎症・抗がん作用を示す：ウコンの新規成分の同定

Bharat B Aggarwal, Wei Yuan, Shiyu Li, Subash C Gupta
PMID: 23847105
DOI: 10.1002/mnfr.201200838

概要

ウコンは、クルクマ・ロンガの根茎から得られる乾燥粉末で、世界の特定の地域で何世紀にもわたって使用されており、抗酸化作用、抗炎症作用、抗がん作用、抗成長作用、抗関節炎作用、抗動脈硬化作用、抗うつ作用、抗老化作用、抗糖尿病作用、抗菌作用、創傷治癒作用、記憶力増強作用など、数多くの生物学的活性との関連が指摘されている。ウコンの成分のひとつはクルクミンであり、5600件以上の引用文献が示すように、そのほとんどが過去10年以内に発表されたものである。最近の研究では、クルクミン以外にもウコンから数多くの化学物質が同定されている。ウコンに認められる活性がすべてクルクミンによるものなのか、あるいはウコンに含まれる他の化合物がクルクミンと独自に、あるいは相加的に、あるいは相乗的にこれらの活性を発現するのかが不明である。しかし、ウコンに含まれるウコン油がクルクミンの生物学的利用能を高めることが研究で示されている。過去10年間の研究により、クルクミンを含まないウコン(CFT)成分が、抗炎症作用、抗がん作用、抗糖尿病作用など、数多くの生物学的活性を有することが示されている。ウコン由来のエレメンは、中国でがん治療薬として承認されている。本総説では、CFTおよびウコンの各成分(ターメリン、ターメロン、エレメン、フラノジエン、カルジオン、ビスクロン、シクロクルクミン、カレピンA、ゲルマクロン)が示す抗がん・抗炎症活性に焦点を当てる。

キーワード：アポトーシス;がん;炎症;ウコン;ウコン成分

この資料を提供するにあたって

動画の内容を理解するため、個人的に翻訳したものです。

誤訳等があっても責任は負いかねます。 作成 堺晶子